

※学識経験者の意見等

○スクールカウンセラー、さらにはそれ以上にスクールソーシャルワーカーの配置・充実が不可欠である。予算と人材の確保等困難な課題も見込まれるが、鋭意向上に向けた取組を期待する。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○スクールカウンセラーについては、スクールカウンセラーアドバイザーを活用し、スクールカウンセラーの資質向上をさらに図るとともに、教育相談体制がより充実するよう取組をすすめていく。

○6名体制に増員されたスクールソーシャルワーカーがそれぞれの担当校を計画訪問し、環境調整で支援が必要と思われる児童生徒のコンサルテーションを教職員に対して行い、引き続き不登校の未然防止や早期対応に努めていく。

No. 13-④	事業名	④教育相談充実事業
----------	-----	-----------

1. 基礎情報

2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決	いじめや不登校等のほか、学校生活における不安や悩み等を解決するための相談を充実させます。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実	
担当課	支援教育課	

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
こどもの悩み相談ホットライン	計画	設置	設置	設置	設置
	実績	設置	配置	—	—
相談員(臨床心理士等)	計画	—	配置	配置	配置
	実績	—	配置	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

○こどもの悩み相談ホットラインの相談件数は110件で、前年度は60件だった。具体的な解決方法を考え、アドバイスすることができた。

○相談員(臨床心理士等)を週3日1名と週4日2名の計3名配置した。児童生徒のニーズに合った支援を行うため丁寧にアセスメントを行った。相談内容は、いじめ・不登校・学習の遅れ・対人関係など、学校生活に関して広範囲に渡り、対応件数は延べ2,305件あった。

5. 課題

○相談者数に対して相談員(臨床心理士等)の人数が少なく、また、相談場所が十分に確保されていないことで、相談者との面接がすぐにできず、迅速な対応につながらない。

6. 課題に対する今後の改善策

○相談業務への対応がスムーズに進むように面接室の確保を含め環境整備を行う。

※学識経験者の意見等

○No. 13-①同様、相談場所の確保に向けて環境整備に鋭意努めていただきたい。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○相談者のニーズや利便性なども含め、相談場所の確保に向けて関係諸機関以外にも発信し、環境整備に努めていく。

1. 基礎情報

2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題4: 学校の教育力向上	横須賀市教職員人材育成プランに基づき、集合研修、校内研修、自己啓発などを通して、学び続ける教師の育成を目指します。また、研修の場の充実、学校を訪問しての研修など総合的な指導・助言を図ります。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標2: 学校の組織力や教職員の力を高めます	
関連施策	施策(8): 学校における校内研究・研修への支援の充実	
担当課	教育研究所	

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
訪問研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

○校外研修では、経験年数に応じて、自己を振り返り、教育公務員としての職務遂行能力、専門的な指導力、そして学校運営に参画する能力が身に付けられるように、キャリアステージに応じた研修内容を構築した。

校内における人材育成を活性化するために、ペア、グループを組み、研究授業を行った。教員同士が互いに授業を見合うことで、経験豊かな教員や専門性が高い教員の教育技術、教科の専門性を経験年数の浅い教員に伝え、授業力を向上することにつながっている。経験の浅い教員が経験豊富な教員に学ぶ機会となり、経験豊富な教員も逆に刺激を受けている効果があった。

また、要請があった学校に対しては訪問支援研修を実施した。主に授業研究や「課題解決の演習手法を用いた研修の場づくり」を提供し、ワークショップ型の研究協議会の進行役を務めたり、学校内の研究推進委員会での協議の支援に入った。

5. 課題

○採用から2年目、3年目に授業づくりや学年・学級経営でつまづいてしまう若手教員が見られ、対策を考える必要がある。

経験豊富な教員の大量退職と若手の大量採用という状況を踏まえ、人材育成の視点からグループリーダーとしての総括教諭または、ミドルリーダー(中堅教員)の意識を高め、能力の向上につながるような研修を実施する必要がある。

6. 課題に対する今後の改善策

○文部科学省の示した方向性に則り、初任者の採用年度から複数年にわたる研修の実施や10年経験者研修の弾力的な運用など、教員のキャリアに応じた研修を計画する。

また、中堅教員を対象にミドルリーダーとしての意識を高め、具体的な学校運営に参画できるように研修を実施する。

※学識経験者の意見等

○初任者の研修を複数年化して適時にスキルアップを図っていくこと、ミドルリーダー研修を充実させて学校経営の中核者意識を育成するとともに、若手教諭の育成にも力を発揮できるようにすることなど、全国的にその取組が急務となっている。同時に、学校での指導助言にあたる指導主事への研修の充実も課題となっている。各学校の教員年齢構成の急激な変化に対応した、総合的な教員研修体系の見直しとその実施が必要とされる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○各学校において適時にスキルアップを図ると共に、ミドルリーダーを育成するため、採用後10年を経過するまでに一定の力を付けられるような研修体系を構築していく。具体的には、経験年数にかかる研修を指摘にあるような形を含め検討をしている。現在、指導主事の会合にて研修を実施しているが、外部講師を招いた研修のみならず、各課の特性を生かし、お互いに専門性を高め合う研修が実施できるよう工夫していく。

No. 15	事業名	子どもと向き合う環境づくりの推進
--------	-----	------------------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題4: 学校の教育力向上	子どもと向き合う時間を確保するために、事務的な業務の効率化を図る手立てを講ずるなど、学校と教育委員会が一体となって取り組むための方策について検討会議などにおいて検討し、教員が子どもと向き合う環境づくりに取り組みます。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標2: 学校の組織力や教職員の力を高めます	
関連施策	施策(9): 教員が子どもと向き合う環境づくりの推進	
担当課	教育政策担当	

2. 事業の概要

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
子どもと向き合う環境づくりに向けての検討会議など	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	未開催	開催	—	—
子どもと向き合う環境づくりに向けた方策の実施	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

<p>【実施内容】 ○平成27年度は、「子どもと向き合う環境づくりに関する検証会議」を開催し、提言に基づいて、これまでに学校と教育委員会が取り組んできたことを検証し、今後の取組について検討した。</p> <p>【効果】 ○学校と教育委員会において、報告書の具体的な方策についての取組が進められた。 ○各学校において、グループ会議が機能することにより、検討が十分になされ、職員会議での協議事項が削減されるとともに論点を絞った協議となり、効率かつ適切な意思形成が図れるようになってきている。また、グループ内での検討を受けて、経験年数の少ない教職員が安心してその業務にあたることができ、OJTの推進につながっている。 ○教育委員会の各課で事務業務の見直しが行われ、各学校へ送付された文書等の整理、調査・照会について改善を図った。このことにより、学校における事務負担は多少軽減されている。 ○支援職員の配置において、時間等を増加したことによって、各学校でよりきめ細やかな指導が可能になっている。 ○各学校が授業日数を増加させ、創意工夫ある教育課程の編成が行われ始めている。</p>
--

5. 課題

○提言に基づいて行ってきた様々な取組は、子どもと向き合う環境づくりを確実に進めているが、学校がそれを実感するまでには至っていない。

6. 課題に対する今後の改善策

○子どもと向き合う環境づくりにつながる業務改善(効率化・情報化など)の視点を明確にし、学校と教育委員会で連携して取り組んでいく。
--

※学識経験者の意見等

○子どもと向き合う環境づくりにつながる業務改善(効率化・情報化など)は、まさに各学校現場のニーズによりその具体的な方法、効力感など多様な在り方を示すものと考えられる。今後とも「子どもと向き合う環境づくりに関する検証会議」の開催を通じて、特に学校現場における創意工夫を積極的に吸い上げ、各学校に推奨していく循環を生み出していくことが望まれる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○子どもと向き合う環境づくりにつながる業務改善(効率化・情報化など)については、文部科学省から出された「学校現場における業務改善のためのガイドライン」及び文部科学省内に設置されたタスクフォースから出された「学校現場における業務の適正化に向けて」の報告書を踏まえ、それぞれの学校において創意工夫された業務改善に関わる取組を整理し、市内の学校に発信していく手立てを検討していきたい。

No. 16	事業名	子ども読書活動推進事業
--------	-----	-------------

1. 基礎情報		2. 事業の概要
対応する重点課題	重点課題5:社会教育施設による学習支援の推進	子どもたちを取り巻く家庭・地域・学校などと連携し、子どもの読書活動を推進するための様々な事業を実施します。
掲載編	社会教育編	
関連目標	目標5:図書館・博物館・美術館の活動を充実させます	
関連施策	施策(12):図書館活動の充実	
担当課	中央図書館・児童図書館	

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
家庭・地域における子どもの読書活動の推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
学校への資料の提供および情報発信	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
『子ども読書の日』等に合わせたの行事開催やPR活動	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
児童図書館の環境整備	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
(仮称)子ども読書活動推進計画策定検討委員会	計画	—	—	検討準備	第3次計画策定
	実績	—	—	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

<p>【実施内容】</p> <p>○家庭・地域における子どもの読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートパック配付数(2,588件) ・保育園・幼稚園・小学生・中学生向けブックリスト配付数(20,462冊) ・8地域文庫(有志の方が町内会館等で、地域の人に貸出をしている団体)への配本。(3,813冊) ・寄贈本やリサイクル本の児童書を、希望する団体に配付。(283冊) <p>○学校への資料の提供および情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市学校図書館研究会会議で、学校における市立図書館資料の活用等を図るため、「調べ学習」のための市立図書館利用手引の配付及び説明実施。 ・学校イントラ(市立学校ネットワークシステム)上で年4回おすすめ本の紹介や行事の情報提供を実施。 ・学校図書館担当者会議で、学校特別貸出の説明及び図書館の各種行事の紹介を実施。 <p>○『子ども読書の日』等に合わせたの行事開催やPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書の日関連行事 「親子で楽しむ映画会」(中央)、 「人形劇(さんびきのこぶた)」・「おはなし会とプサルタコンサート」(児童)、 「子ども読書の日」0・1・2歳児向けおはなし会(児童・北・南)、 「田浦中学校音楽部による箏演奏」(北)、 「マジックショー」(南)を実施。 ・各館で特色を活かし、 「高校生歴史講座」(中央)、 <p>横須賀製鉄所(造船所)150周年記念行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 「図書館子どもイベント(レング積み体験)」(中央・北・南)、 「どの本よもうかな?・・・読書相談会」・「小学向け 夏休みにおすすめする本～テーマ:船・海～」(児童)、 「大学生によるおはなし会」(北)、 「夏休み宿題フェスティバル」(南)等の子ども向け行事開催。 ・キャラクター“ぶっくん”(児童)の紙芝居を登録・配架(図書館・図書室)し貸出を実施。 また、市立保育園・幼稚園・小学校・特別支援学校にも配付し、図書館に親しみがもてるよう工夫し、PR活動を実施。
--

○児童図書館の環境整備

- ・閉館後毎日、書架のほこりはらいを行い館内美化に配慮するとともに、書架整理を実施。
- ・衛生的に利用できるよう、毎休館日前に絵本の部屋のカーペット部分の除菌を実施。

【効果】

- ・学校イントラで行事の情報提供をしたり、図書館の近隣保育園・幼稚園に行事の一覧表を送付したことで行事(申込制の行事のキャンセル待ち発生)の参加者が増加。(児童)
- ・各種イベントの開催や企画展示により、図書館の魅力や読書の楽しさ等をアピールできたため、児童書の貸出冊数増につながった。
- ・児童図書館で、現在小・中学校で使用している教科書の閲覧・貸出を実施し、好評を得た。

5. 課題

- 調べ学習や学校における読書活動の推進に、市立図書館資料の活用をさらに促進していく。

6. 課題に対する今後の改善策

- 学校イントラでの情報提供をさらに充実させ、現行体制でできる学校との連携をすすめていく。

※学識経験者の意見等

- 学校イントラでの情報提供の一層の充実など、本市が取り組んできたこれまでの方向をさらに強力に押し進めていっていただきたい。
- 子どもを大事にするという時代の流れの中で、子ども文化に関する近世・近代資料の収集が求められる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 学校イントラでの情報提供をより充実するとともに、学校図書館担当者会議などの各種会議で図書館の利用について紹介していきたい。
- 児童図書館には、児童文化コーナー(児童文学に関する資料のコーナー)があるが、子ども文化全般に関するコーナーではない。児童文化コーナーから発展した子どもの文化についての資料収集については、今後の検討課題としたい。

No. 17	事業名	子ども向け博物館教育普及活動の推進
--------	-----	-------------------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5:社会教育施設による学習支援の推進
掲載編	社会教育編
関連目標	目標5:図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(13):博物館活動の充実
担当課	博物館運営課

2. 事業の概要

学校と連携または協力して、児童生徒の学習の場を提供します。

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校教育で利用できる企画を開発し、教職員との共同研究を推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
「昔のくらし」や「移動博物館」など、学校教育に役立つ展示・企画	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

<p>【自然部門】 (実施内容) ○小・中学生向け展示教材キット「よこすかの自然」を希望校への貸し出した。 ○希望校に対し、学芸員の出前授業および館内展示解説と、解説担当職員による自然教育園内の解説を実施した。 ○教育研究所と協力して自由研究の成果展示を行った。 (効果) ○理科や身近な自然に対する理解度を深めた。 ○理科研究に対する意欲の増進を図った。</p> <p>【人文部門】 (実施内容) ○来館による学習を希望する学校に対し、学習室内に古代の土器や昔の道具などを展示し、資料に直接ふれたり石器で紙を切るなどの体験学習を実施するとともに、質問や疑問に学芸員が答えた。 ○学校内での使用を希望する場合は、資料を貸し出した。 (効果) ○専門的な知識をもつ学芸員が質問や疑問に答えることや、本物の資料に直接触れることで、歴史に対する興味と理解度を深めることができた。</p>
--

5. 課題

- 授業支援方法のさらなる充実。
- 利用希望校の拡大。

6. 課題に対する今後の改善策

- 授業支援方法のさらなる充実
 - ・希望する支援内容の聞き取りや、学習目的に則した支援内容の提案など、学校と博物館との一層の連携強化を図る。
 - ・授業内容に適応したグッズの改良や、体験型学習方法を充実させる。
- 利用希望校の拡大
 - ・博物館ホームページ等での広報のほか、具体的な活用方法を例示した案内文を市内小中学校へ配布するとともに、各種教員研修などでも広く周知する。